



くろ 黒いキングョが、あかいろ うすい赤色になったのはなぜなの

キングョはフナから生まれてきた

キングョの先祖はフナです。突然変異(とつ然、親とは似ていない性質や、姿、形が子に現れ、それが子孫に伝わっていくこと)で現れた赤い色のフナを、人間が、より赤い色のもの、赤と白が混じったもの、おびれがりっぱなもの、より変わった形をしたもの、と改良を重ねてきて、今のキングョが生まれました。ですから、1ぴきのキングョの親、その親の親とたどっていくと、いろいろな色や形の先祖がいます。

先祖の性質が生長のとちゅうで現れる

キングョの赤ちゃんは、親が全身赤とか、白と赤の混じった色をしていても、みな、黒っぽい色をしています。親のキングョの色や形とは似ていないで、フナの子魚と色や、体の形はそっくりです。これは、先祖が、フナだからなのです。

黒い色をしたキングョの赤ちゃんも、卵からかえって2か月ぐらいたつと、体の色が変化し始めます。親が赤や白が混じったキングョなら、体の黒い部分が少なくなって、おなかのあたりから黄色くなってきます。そして、少しずつ、親のキングョに似た、赤い色や形になっていきます。親が黒いキングョは、ふつう、子どもも黒色ですが、先祖に赤いキングョがいたら、赤い色がまじってくることもあります。

人間でも、赤ちゃんのときはお母さん似だったけど、中学生時代はお父さんに似ていて、大人になったらおじいさんにそっくりになった、というようなことがよくあります。おじいさん お母さん 子どもと、遺伝子(親の性質や体質を伝えるもの)がわたされてきて、その遺伝子のおかげで、いろいろな性質や体質が、一生の間に、いろいろ現れてくるのです。

(監修・安部 義孝)

